

## 指定管理者評価シート

事業名	札幌市社会自立センター管理業務	所管課(電話番号)	保)障がい保健福祉部障がい福祉課(211-2938)
-----	-----------------	-----------	----------------------------

### I 基本情報

1 施設の概要			
名称	札幌市社会自立センター	所在地	東区伏古1条2丁目1番40号
開設時期	平成4年4月	延床面積	871.12㎡
目的	知的障がい者の社会自立を促進する為、生活指導、健康管理などに配慮した環境の下で労働する。		
事業概要	就労継続支援A型事業所		
主要施設	作業室2室・更衣室、休憩室、食堂、相談室、医務室		
2 指定管理者			
名称	社会福祉法人 札幌親会		
指定期間	平成30年(2018年)4月1日～令和5年(2023年)3月31日		
募集方法	非公募 非公募の場合、その理由:管理期間中の管理が良好に行われていると認められたことから、札幌市福祉施設条例第13条第2項規程に基づき非公募とした。		
指定単位	施設数:1 複数施設を一括指定の場合、その理由:		
業務の範囲	施設維持管理業務、施設事業計画及び実施に関する業務、施設利用承認業務等		
3 評価単位	施設数:1 複数施設を一括評価の場合、その理由:		

### II 令和3年度管理業務等の検証

項目	実施状況	指定管理者の自己評価	所管局の評価				
1 業務の要求水準達成度							
(1)統括管理業務	<p>▽ 管理運営に係る基本方針の策定</p> <p>・さっぽろ障がい者プラン2018の基本理念の一つとして挙げられている「地域生活移行や就労支援などの課題に対応したサービス基盤の整備」及び「福祉施設から一般就労」に向けて、社会自立センターとして「生活支援、健康管理などに配慮した環境の下で就労の機会の提供を行うことにより、就労に必要な知識及び能力向上のための訓練、その他のサービスを適切かつ効果的に行い、社会自立を促進すること」を基本方針として策定した。</p> <p>・個別支援計画に基づき支援を行い、利用者の就労に必要な力を育てます。</p> <p>・利用者の仕事と生活を理解しバランスを保ちつつ、働きながら地域生活が継続され、または可能になるよう支援します。</p> <p>・仕事の理解・技術を高め、仕事を通じてひとり一人が充実感を持ち、自己実現が図られるように支援します。</p> <p>・職場が単に作業を提供するだけの場所にとどまらず、生活に張りりと豊かさを与える環境であり、生活の糧となるよう事業を展開します。</p>	<p>基本方針においては、概ね実施することができた。しかし、毎月の本人との面談は行ったが、年2回の保護者懇談会は、今年度もコロナ禍では高齢者が多い為実施できなかった。必要に応じて三者面談の中から個々へのニーズを把握し、障害特性に配慮した個別支援計画作成を行った。就労支援においては、昨年同様コロナ禍での外部活動が出来なかったが本体では必要な知識や技術の支援、対人関係や健康管理といった生活支援を行っている。</p>	<table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <td style="width: 25%;">A</td> <td style="width: 25%; background-color: yellow;">B</td> <td style="width: 25%;">C</td> <td style="width: 25%;">D</td> </tr> </table> <p>・基本方針に則り、適正に管理運営がなされている。</p> <p>・中学校・大学からの体験実習の受入れや、就労移行支援事業所等からの職場体験としての利用にも積極的に対応している点は評価できる。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽ 平等利用に係る方針等の策定と取組実績</p> <p>就労継続支援事業所という機能のみにとられず、職業を体験できる場として広く自立センターを活用していただく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自立センターのサービス利用を希望する方々が公平公正に支援を受けられるよう利用希望者への情報提供を行い、高等支援学校、就労移行支援事業所、他関係団体との連携を密に行っている。</li> <li>・近隣中学校の特別支援学級の生徒、高等支援学校の生徒の職場実習の受け入れ、就労移行支援事業所の職場体験、さらには夏、冬の長期休暇を利用した職場体験を積極的に受け入れ、ご本人が自身の適正(職業の)を見極める場としての提供も行っている。</li> <li>・利用契約者以外の相談にも積極的に応じ関係機関との連携のもとご本人の希望に応じた情報の提供を行っている。</li> </ul>	<p>今年度は、定員30名に対し、34名と雇用契約を結んでいる。今年度の体験実習は、中学生が3名と大学生介護体験1名、他の事業所より体験実習者1名が参加している。コロナ禍においては、例年の高等支援学校からの希望はなかった。実習では感染対策を徹底した中で実施した。</p>	
	<p>▽ 地球温暖化対策及び環境配慮の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・エネルギー使用の合理化に関する法律を遵守し、社会自立センターにおけるエネルギーの使用を利用者の活動に支障をきたさない範囲で適切に管理し合理化を図ってきた。</li> <li>・エネルギー使用の大部分が洗濯業務における電力、重油であり機械の効率的な運転、日々のメンテナンスを心掛け、使用料の削減に努める。</li> </ul> <p>▽ 管理運営組織の確立(責任者の配置、組織整備、従事者の確保・配置、人材育成)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指揮命令系統の明確な組織体制のもと、業務分掌を行いそれぞれの部門に責任者を配置し管理運営に必要な体制を業務計画概要にて全体周知してきた。</li> <li>・職員配置は、基準より多く配置し手厚い支援を行える体制を作るとともに研修計画をもとに、障がい理解及び障がい者の就労に関わる研修に積極的に参加してきた。</li> <li>・資格取得に向けた取り組みを行う。</li> </ul>	<p>札幌市環境マネジメントに基づき適切な管理を行った。機械の効率的な運転はもとより、照明のこまめな消灯、室温管理。さらにはコピー用紙の裏紙使用や雑紙への回収を心掛けゴミの減量に努めた。作業場の電力及び重油・地下水使用量に関しては、2年に及ぶコロナ禍の影響で生産減になったことと9月・10月の改修工事期間中の工場閉鎖に伴い、電気・重油・地下水などの使用量が前年度よりも減っている。</p> <p>業務分掌における責任者の配置は、適期にモニタリングを行ってもらうことで機能的な業務の遂行につながっている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・職員研修は全ての職員を対象に積極的に参加に努め、コロナ禍に伴いウェブ会議の活用も行った。</li> </ul>	

	<p>▽ 管理水準の維持向上に向けた取組</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の障がい福祉施策と整合性を図り、安定かつ継続的なサービス提供に努めた。</li> <li>・利用者のニーズ・障害特性に配慮し、アセスメントを行いそれをしっかりと個別支援計画に反映させ、日々の打ち合わせや職員会議、業務会議、図書館担当者会議を開催しきめ細やかな支援を行う。</li> <li>・事故防止においては、「ヒヤリ・ハット」報告、「事故報告書」を精査し事前の事故防止や職員の意識強化を図り、安全・安心な職場環境に努める。</li> <li>・利用者本人や保護者が気軽に相談できる体制を作り、課題解決に向けた相談援助を行う。</li> </ul> <p>▽ 第三者に対する委託業務等の管理(業務の適正確保、受託者への適切監督、履行確認)</p> <p>電気保安をはじめ機械整備に関わる分野について委託する。監督及び履行確認は徹底してきた。第三者に委託し承認されている管理業務は以下のとおり。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①自家用電気工作物保安管理業務</li> <li>②機械警備(防犯警備、火災異常監視、設備異常監視)</li> <li>③ボイラー設備保守点検業務</li> <li>④消防用設備点検業務</li> <li>⑤地下油タンク及び埋設配管の漏洩点検業務</li> <li>⑥水質検査</li> <li>⑦水洗機、乾燥機点検</li> </ol>	<p>今年度もケガや事故はなかったが、軽微なヒヤリ・ハットの報告はあり、今後も気を付けていく。月2回の本人との面談は行っている。保護者との面談は、コロナ禍で高齢者が多いため、中止としている。内容によっては個別の対応を行い、相談支援事業所を交え課題解決の支援も行っている。</p> <p>再委託の適正、確認に努める。</p>					
	<p>▽ 札幌市及び関係機関との連絡調整(運営協議会等の開催)</p> <table border="1" data-bbox="384 1234 979 1487"> <thead> <tr> <th>開催回</th> <th>協議・報告内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>第1回</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2月24日 運営協議会</li> <li>・社会自立センターの現状と課題、展望について。</li> <li>・社会自立センターの利用に関するアンケート結果について。</li> <li>・次年度への事業計画について。</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;協議会メンバー&gt;</p> <p>札幌市保健福祉局障がい福祉課運営指導係長・及び担当職員、札幌市立札幌小学校校長、社会福祉法人わらしべ会理事長、利用者代表、保護者会役員2名、社会自立センター所長、社会自立センター職員代表。 計9名</p> <p>▽ 財務(資金管理、現金の適正管理)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人の事務規定に測り準用。</li> <li>・会計事務所に監査指導(年2回)、法人監事監査(年4回)実施。</li> </ul>	開催回	協議・報告内容	第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月24日 運営協議会</li> <li>・社会自立センターの現状と課題、展望について。</li> <li>・社会自立センターの利用に関するアンケート結果について。</li> <li>・次年度への事業計画について。</li> </ul>	<p>社会自立センターの運営上の課題、展望、利用に関する満足度に対して報告を行い、理解を得、アドバイスをいただく。今年度もコロナウイルス感染予防の為、会議は書面を送付してご確認頂き、ご意見、ご感想を頂く形で実施した。その上で、一年間の実績に対して、高評価を頂いた。</p> <p>今後も適正な取り組みを継続して行う。</p>	
開催回	協議・報告内容						
第1回	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2月24日 運営協議会</li> <li>・社会自立センターの現状と課題、展望について。</li> <li>・社会自立センターの利用に関するアンケート結果について。</li> <li>・次年度への事業計画について。</li> </ul>						

	<p>▽ 要望・苦情対応</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人苦情解決システムに関する規定に定めるところにより解決のための体制、方法を確立している。</li> <li>・施設内に利用者相談事業体制を掲示し苦情箱の設置も行っている。また定期的に行っている面談の中からも要望や意見を聴取している。</li> <li>・面談にて下記の要望があった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①65歳退職を迎え、B型事業所への移行を希望。</li> <li>②ご本人の体調や高齢の母親の状態を考え、自宅近くのB型事業所への提案をする。ご本人、ご家族からも同意を得る。</li> </ul> </li> </ul> <p>▽ 記録・モニタリング・報告・評価(記録、セルフモニタリングの実施、事業報告、札幌市の検査等への対応、自己評価の実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月の月次報告の中で運営・管理に関する報告をしている。また、調査依頼文書を含む提出した書類は、ペーパー管理とともにパソコンデータとして管理している。</li> </ul>	<p>今年度は苦情等の申し立てはなかったが、あった場合については、速やかに対応したい。</p> <p>要望については、状況を把握した上で、本人・ご家族と話し合いを行い、相談支援事業所を通してB型事業所を探した。結果、左記の2名は次年度より他事業所へ移行となる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・記録類のデータ管理は、確実にやっている。業務での分からない事は都度札幌市へ確認を行っている。</li> </ul>					
(2)労働関係法令遵守、雇用環境の維持・向上	<p>▽ 労働関係法令遵守、雇用環境維持向上(事故の有無などの安全衛生面を含む)</p> <p>労働基準法、労働安全基準法、労働契約法、その他社会自立センターの運営管理に当たり関連する労働関係法令を遵守し、必要な届け出を監督官庁に提出し運営している。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人として社会福祉事業を取り巻く環境の変化に対応すべく、福祉サービス提供者として職員ひとり一人が資質の向上を図りながら、法人事業全体のレベルアップを目指すことから人事考課制度を導入している。</li> <li>・利用者においては、法定福利(雇用保険、社会保険、厚生年金、退職共済)に加入している。</li> </ul>	<p>雇用環境を整備し、職員が目標を持ち、やりがいのある充実した職場環境を実践してきた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の賃金については年々向上させているが、コロナ禍の今年度も収入減により特別手当は支給できなかった。</li> </ul> <p>今年度は、大きな事故、けがもなく経過しており、今後も継続して行っていく。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				
(3)施設・設備等の維持管理業務	<p>▽ 総括的事項(利用者の安全確保、市民サービス向上への配慮、連絡体制確保、保険加入)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・就労系の事業所であることから、働く環境への安全管理は、整理整頓、保護具の着用をはじめ徹底して行っている。保険関係は、建物火災保険。利用者については、施設賠償保険に加入し万が一の時に対応できる体制を整えている。</li> </ul> <p>▽ 施設・設備等の維持管理(清掃、警備、保守点検、修繕、備品管理、駐車場管理、緑地管理等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設及び設備全般の機能を良好に維持管理するとともに、施設の劣化等を早期に発見し、措置するため日常点検、定期点検、その他必要な保守点検業務を実施。屋上部分の定期点検、ルーフドレンの清掃、館内のワックスは確実にしている。</li> <li>緑地は、今年度も保護者会による定期的なボランティアがコロナ禍により実施できなかったため利用者と職員で美観を維持している。</li> <li>自立センターは開設より30年を迎え、札幌市が2か月間の大改修工事を実施した。(9月10月)</li> </ul>	<p>年を追うごとに、建物各所に老朽化が進み、影響が出ていたが、大改修工事により、ボイラー、電気系統、トイレなど新しくして頂いた。</p>	<table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>B</td> <td>C</td> <td>D</td> </tr> </table> <p>・仕様書に基づき、適正に施設の維持管理がなされている。</p>	A	B	C	D
A	B	C	D				

	<p>▽防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、火災、風水害の災害及び事故による傷病などが発生した場合に迅速かつ的確な対応ができるよう、防災計画を定め、防火管理者を中心に日頃から訓練を行い、利用者、職員などの安全確保を図ってきた。</li> </ul> <p>▽防災</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地震、火災、風水害の災害及び事故による傷病などが発生した場合に迅速かつ的確な対応ができるよう、防災計画を定め、防火管理者を中心に日頃から訓練を行い、利用者、職員などの安全確保を図ってきた。</li> </ul>	<p>火災については、自動火災通報システムを導入している。6月9日、8月18日に消火訓練、通報訓練、避難誘導訓練を災害時避難訓練と併用し実施している。また、毎年恒例の札幌市と札幌市知的障がい福祉協会主催の災害時避難訓練はコロナウィルスの為、今年も中止となった。</p>									
<p>(4)事業の計画・実施業務</p>	<p>▽就労支援事業の推進について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・質の高い就労支援の提供と安定した収入の確保、健康で豊かな生活を送るための地域支援活動を重点課題とし取り組んできた。毎月本人と行っている面談や保護者との面談からニーズを把握しアセスメントを行い、それをしっかりと個別支援計画に反映させ支援を行ってきた。</li> </ul> <p>▽ 障害福祉に関する情報収集及び情報提供業務</p> <p>各養護学校、支援学校、就労移行支援事業所、社会福祉協議会との連携により、各種実習の受け入れを行う。また、ハローワーク、高齢・障がい者雇用支援センターと密接な関係を保持し、必要に応じて諸手続き、就労斡旋など適切な支援業務も行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・法人ホームページを利用し事業所の情報提供を行う。</li> <li>・近隣の小学生の職業体験をはじめ小学校のバザーにも参加し障害についての啓発活動を行う</li> <li>・見学者の積極的な受け入れを行う。</li> </ul> <p>▽利用者の会(自治会)活動の支援</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の主体的な活動を支援すべく自治会活動のバックアップを行い、年間数回行われる行事等の支援を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・一般企業への就労移行は、コロナ禍において実施できなかった。高齢化が進む中で、必要に応じて家族を交えB型事業所への移行を説明している。結果、2名がB型事業所へ移行した。一般就労より自立センターへ転職した利用者1名契約する。</li> </ul> <p>コロナ禍の状況で、実習受け入れは少なかった。また、キャンセルもあった。恒例の近隣小学校のバザー・体験実習も中止となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の自己選択、自己決定を支援し、年間行事の内容については、コロナ禍で中止となった。が、小グループでのお楽しみ会は事業所内で行った。</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>・利用者個々人の適性に応じたきめ細かい配慮によりサービスが提供されている点は評価できる。</p>	A	B	C	D				
A	B	C	D								

(5)施設利用に関する業務	▽ 利用件数等 (人)	今年度は昨年度に続きコロナ禍もあり、利用者の感染に伴う欠勤もあった。また、A型事業所としての有給消化は出勤扱いにならない。それらを勘案しても令和3年度の平均利用率は92%であった。	A	B	C	D
			・利用者が有給休暇を消化したうえで要求水準を10%以上上回る高い利用率を維持している点は特に高く評価できる。			
(6)付随業務	▽ 広報業務 ・(社福)札幌会のホームページの更新、他東区社会福祉協議会への登録など。ウェブアクセシビリティ方針～JIS X8341-3:2016の適合レベルAAに準拠。 ・札幌会広報誌「それいゆ」・広報誌「ドリーム」の発行(共に年3回)  ▽ 引継ぎ業務 ・前回からの継続しての引き継ぎ業務はなし。	継続していく。	A	B	C	D
			・各種広報媒体を利用した活動は評価できる。			
2 自主事業その他						
▽ 自主事業 ・該当なし。  ▽ 市内企業等の活用、福祉施策への配慮等 ・第三者委託は、すべて札幌市内の業者。 ・事務用品及び消耗品も市内業者より購入している。		継続していく。	A	B	C	D
			・適正に事業を実施している。			



## 3 利用者の満足度

▽ 利用者アンケートの結果		A	B	C	D
実施方法	・実施期間 令和4年1月20日～令和4年1月31日 ・対象者 社会自立センター利用者34名 ・調査方法 無記名の自計式アンケート ・回収率 100%	今年度も選択式及び記述式にてアンケートを行っている。コロナ禍の為、予定していた活動は出来ず、事業所としては、仕事の合間を見計らって利用者が楽しめるよう2回ほど事業所単位でのお楽しみ会を行った。しかし、長引くコロナ禍では、仕事への影響もあり、クリーニング作業量の減少が顕著にある中で、今年度に実施した自立センター改修工事期間の仕事場の移転や作業内容の激減なども利用者にとってはストレスのたまる期間であった。その為、全体的に満足度が低くなったことも要因のひとつである。今後は、コロナどうまく付き合いながら余暇支援にも力を入れていきたい。		・満足度は要求水準を下回っているものの、新型コロナウイルス感染症流行及び札幌市が行った施設改修工事の影響によるものと認められ、要求水準を下回る幅もごくわずかなものであり、評価できる。	
結果概要	①センター利用(日数・時間)の満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 88.2%				
	②センターの建物の管理状況の満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 79.4%				
	③利用者の作業内容の満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 79.4%				
	④職員の支援満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 85.3%				
	⑤センター内の活動以外での満足度(施設外就労含む) 「とても満足、まあ満足」を合わせると 73.5%				
	⑥センター行事の満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 55.9%				
	⑦家庭生活への相談・支援の満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 79.3%				
	⑧センターの総合的な満足度 「とても満足、まあ満足」を合わせると 79.3%				
	⑨職員は、きちんと挨拶をしているか 「大変良かった、まあ良かった」を合わせると 90.7%				
	⑩職員は、適切な言葉遣いをしているか 「大変良かった、まあ良かった」を合わせると 85.3%				
	⑪職員は、利用者の気持ちの理解に努め尊重しているか 「大変良かった、まあ良かった」を合わせると 82.4%				
	⑫職員は、利用者からの相談などに親切、丁寧に対応しているか 「大変良かった、まあ良かった」を合わせると 82.4%				
	⑬接遇の総合的な満足度は 「大変良かった、まあ良かった」を合わせると 82.4%				

利用者からの意見・要望	<p>①みんなで仲良く相談をしてお仕事をしていきたい。  ②みんなで食事に行きたい。  ③旅行へ行きたい。  ④動物園へ行きたい。  ⑤図書館のレギュラーとして仕事をしたいです。  ⑥作業免許をとりたい。  ⑦体調面やメンタル面を考えて仕事をしますが、周りの人と迷惑をかけずに仕事をしていきます。  ⑧みんなと会いたいです。  ⑨言葉遣いが気になる人がいます。</p>
総評	<p>コロナ禍の影響は大きく、総合的に約81%の満足度で、前年度と比べると下がってしまった。クリーニング関係の低迷や感染拡大による余暇活動の中止など、不満の殆んどが、コロナ関連となった。その中でもささやかながらお楽しみの企画を実施した。</p>
利用者からの意見・要望とその対応	<p>コロナ終息後の活動を楽しみにしている。</p>



## 4 収支状況

## ▽ 収支 (千円)

項目	R3年度計画	R3年度決算	差(決算-計画)
収入	136,650	135,813	▲ 837
指定管理業務収入	73,161	71,353	▲ 1,808
給付費	59,108	58,600	▲ 508
利用料金			0
その他	14,053	12,753	▲ 1,300
生産活動事業収入	63,489	64,460	971
支出	134,857	134,532	▲ 325
指定管理業務支出	72,424	72,131	▲ 293
生産活動事業支出	62,433	62,401	▲ 32
収入-支出	1,793	1,281	▲ 512
利益還元			0
法人税等			0
純利益	1,793	1,281	▲ 512

## ▽ 説明

新型コロナウイルス感染症の影響により就労支援事業収益は、昨年度に比べ5,610千円の減となった。そのために今年度も従業員の賃金アップはできなかった。収益減の要因としては、コロナもあるが、2か月間の改修工事期間における仕事環境の制限によるものが大きい。

・指定管理業務収入は、訓練等給付費収益。その他は、障がい者支援機構調整金、コロナ感染防止対策事業支援金、改修工事札幌市負担金など。

・生産活動事業収入は、就労支援事業収入(玄関マット洗浄、対ル洗浄、市内図書館清掃委託料)。

## &lt;支出&gt;

・指定管理業務支出は、職員人件費、賃借料、燃料費等。

・生産活動事業支出は、就労事業支出(従業員人件費、材料費、修繕費等)

A	B	C	D

・新型コロナウイルス感染症の影響や2ヶ月間の改修工事期間における仕事環境の制限により計画よりも減収になったものであると認められる。

## &lt;確認項目&gt; ※評価項目ではありません。

## ▽ 安定経営能力の維持

・就労継続支援A型事業所として、受注量の増加に努め、賃金や賞与のアップを図りながらも収支を均衡を図る努力を進めている。

クリーニング業界のコロナでの影響が大きく収益増の見込みはとても難しい。

適	不適

・安定した運営を保持している。

## ▽ 個人情報保護条例、情報公開条例、行政手続条例、オンブズマン条例及び暴力団の排除の推進に関する条例への対応

札幌市暴力団の排除の推進に関する条例を周知し対応します。各条例の規定により、適切に対応してきている。・協定に関する契約(第三者への委託、物品調達等)について、暴力団員や暴力団関係事業者を相手に契約を行わなかった。

適	不適

・各条例を順守し、適正に対応している。

## Ⅲ 総合評価

【指定管理者の自己評価】	
総合評価	来年度以降の重点取組事項
<p>平成30年に5年間の指定を受け4年目となる今年度は、札幌市公の施設に係る指定管理者の条例に基づき、コロナ禍ではありませんでしたが、概ね当初の計画通り実施することができました。</p> <p>・今年度もA型事業所及び札幌市の指定管理者としての役割を再確認した上で、雇用状況や作業環境の整備、高齢化対応など事業の見直しを行いました。</p> <p>・支援目標である「質の高い就労支援の提供と安定した収入の確保」、「健康で豊かな生活を送るための地域支援活動」においては、利用者それぞれが持てる力を十分発揮し仕事にも生活にも意欲的に取り組めるよう、本人と行なっている面談などからニーズを把握し、それをしっかりと個別支援計画に反映させ相談支援事業所の職員と連携を図り支援を行ってきました。自立センター利用者の現状においては、依然として高齢化が目立ってきている中で、60歳を超えた方に対しては、時間短縮の対応をさせてもらい、帰宅時間を早めることとしました。また、65歳定年を迎えた利用者や、体力低下の高齢の利用者には、相談支援事業所を通して、B型他事業所への意向を促し、退職することとなりました。一方でマンパワーを確保する為の、高等支援学校へのアプローチや就労支援事業所への働き掛けをおこなってきましたが、コロナ禍における自粛期間や実習取り消しなどで上手くいきませんでした。そんな中一般企業を辞めた1名の若い利用者が自立センターへ就職されました。就労継続支援A型事業所の運営についてはコロナの影響やロシア、ウクライナ情勢により、物価上昇など、未だに非常に厳しい状況が続いております。特にクリーニング関係はずっと低迷状態にあります。図書館清掃の収入の助けもあり、利用者には何とか平均97,000円台の給料を払っていますが、限界が近づいています。全国平均よりは約20,000円程高い金額ではありますが、目標の全員最賃達成となるとまだ40,000円足りない状況です。また、労基署への最賃減額申請も、思うようにいかず苦慮しております。次年度以降も利用者の主体性を尊重し、健康で生き生きと働ける職場環境の提供と生活支援の充実を目指し、札幌市の公共施設として期待にこたえられるよう努めたいと思います。</p>	<p>・就労事業の推進について</p> <p>①利用者給与の増加を目標に、引き続き委託事業の増加、さらには作業場を活用した新たな事業の開拓を目指す。 ※作業環境の見直しと利益率の高い仕事を開拓していく。</p> <p>②支援学校をはじめ各関係機関と連携し新たな利用者の確保を行う。(職場実習の受け入れ)</p> <p>③利用者の一般企業への移行を目標に、就労に必要な知識及び能力の向上を図るとともに、就労支援の推進を図る。</p> <p>④個別支援計画に基づき支援を行い、利用者の就労に必要な力を育てるとともに働きながら安心してゆとりのある地域生活が送れるよう支援する。</p> <p>・今年度も家庭状況の把握と地域生活者の調査を実施する。</p> <p>・各種関係機関に情報提供を行いより多くの市民に実習や体験を通して事業所の利用を促進する。</p> <p>・研修に積極的に参加し支援技術はもとより就労に係る専門知識の向上に努める。</p> <p>⑤高齢化対策とマンパワーの導入をする。</p> <p>・引き続き、高齢者や持病通院者で体力が低下してきている方へは、家族を交えB型事業所への移行相談を行っていく。一方で新規の若い人材確保にも力を入れ、目標とする工賃向上への基礎作りをしていきたい。</p> <p>⑥労働基準監督署での減額申請に係る書類の見直しと、総合支援法との整合性を統一させ変更届を再確認していく。</p> <p>⑦コロナウィルス感染予防の徹底を行い、検温、手洗い、マスクの着用、作業場の立ち位置の工夫など重点的に行う。</p> <p>⑧基本的には就労中心の支援ではあるが、限られた時間を利用して、余暇活動の充実を図っていきたい。</p>
【所管局の評価】	
総合評価	改善指導・指示事項
<p>新型コロナウイルス感染症等の影響があり、収益に減少が見られたが、作業環境の改善を図りながら、工賃の向上に努めていることは高く評価できる。</p> <p>また、個々の特性に応じたきめの細かい支援は評価できる。</p>	<p>引き続き、作業環境の改善を図りながら従業者の処遇向上に努めてもらいたい。</p>